

文教厚生常任委員会活動レポート

開催日：令和7年8月22日(金)

開催場所：1・2号委員会室

町立病院

1. 町立病院の管理運営について

令和7年度7月の入院延べ患者数は3,633人、1日平均患者数は117.2人、診療収入は前年同月との比較では547万6,000円増の1億7,022万円となりました。

外来の延べ患者数及び診療収入は、予算と比較して上回り、入院・外来の診療収入合計は3億609万2,000円で、前年同月の予算と比較すると771万2,000円増加しているとの報告を受けました。

【主な質疑】

委員：新聞報道で中標津保健所管内のコロナ罹患率が全道5本の指に入るそうですが、現在どのような状況ですか？

担当：コロナ罹患者は8月4日～8月10日の1週間で2人、8月11日～8月17日の1週間で15人、自宅で簡易キット検査を行い1人が陽性、家族が陽性でみなし陽性が1人、合計17人です。一般患者と動線を分けて早い時間帯に診察対応をしています。

委員：これからの季節、コロナ感染対策の周知は？

担当：手洗いやうがい等の標準予防策、また、時々に応じた病院からの発信を行います。

町民生活部

1. 健康づくり推進事業について（北海道医療大学との包括的連携協定について）

本町と北海道医療大学が包括的な連携のもと、相互の資源を活用した連携を強化することを目的とし、北海道医療大学と包括的連携に関する協定を令和7年8月27日に連携協定締結予定との説明を受けました。

具体的な動きはこれからですが、公認心理士を講師として招き、メンタル部分で自殺予防についての講演会が予定されています。

【主な質疑】

委員：協定で北海道医療大学に求めることは？

担当：具体的な部分は次年度以降に協議します。大学の強みやノウハウを活かした分析対策の検討、継続的な講演依頼、理学療法士や作業療法士などの人材提供を想定し、当町からは大学へは滞在実習の受け入れ、住宅提供などを行います。

3. 住民生活・環境衛生事業について（地域公共交通の再編について）

令和5年7月に策定した「中標津町地域公共交通計画」の基本方針である”中標津町らしい公共交通ネットワーク”の実現に向け、令和7年10月より、町内バス路線再編、実証運航を予定しているとの説明を受けました。

市内線は3路線に分けて運行し、3線ともに利用需要の高い「東武・町立病院・高校」を経由します。運行に当たっては運転手及び車両に限りがあるため、南線を阿寒バス、東線・西線を町営バスにて運行します（土日祝日・年末年始を除いた平日の運行）

運賃は大人200円（乗継運賃100円）、小人100円（乗継運賃50円）です。

武佐線・俣落線・養老牛線は通学便が2便ずつ、通常便は2便ずつで武佐線と俣落線は週2日、養老牛線は週1日、郊外路線は予約曜日運行のデマンド化になります。

通常便（お買い物便）は予約制の運行とし、予約がなければ運行しないこととなります。（予約は電話受付となります）

デマンド路線の運賃は大人片道1,000円、小人片道500円です。

【主な質疑】

委員：市内線運賃が現在の160円から乗り継ぐと300円になります。乗継運賃無料の自治体もありますが検討は？

担当：料金負担の適正や一人当たりの運賃は阿寒バスから200円の提案があり、その金額が軸になっています。無料化は考えていません。ただし、東線、西線は5便から13便に増え利便性を向上させています。

委員：今はキャッシュレスの時代です。これかも現金で支払いを続けるのですか？都市部でバスの乗り方が分からない子どもたちが増えるのでは？

担当：タッチ決済などが普及しています。利便性を考えると機器を導入したいですが、使用料や手数料を要するので、現時点では難しいです。今後、子どもたちへバスの乗り方教室などを行います。

委員：機器導入費用は？

担当：機器の購入では30万～100万円程度、維持費や決済会社手数料で毎年20～30万円程度、必要台数分の経費が必要となります。

4. 教育委員会所管施設・事務調査について

（道有財産の譲与及び貸借契約について（酪農試験場「農具庫」・「種苗倉庫」））

これまで酪農試験場で所有されていた国の登録有形文化財である「農具庫」・「種苗倉庫」について、老朽化が激しく（下見板張りの破損・基礎の傾斜、劣化、破損）、試験場としての機能、役割は隣接する施設へ移転したことから、本町では「中標津町文化在保存活用地域計画」に基づき、旧庁舎と一体で保存活用することを鑑みて譲与を受けることとしたとの説明を受けました。